

ボーリング柱状図

調査名 主要地方道 東城西条線 外測量地質調査設計業務委託 (道路災害防除)

ボーリングNo

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	小出居橋 No. 2		調査位置	広島県庄原市東城町森 外				北緯	
発注機関	広島県北部建設事務所 庄原支所			調査期間	平成 27年 5月 27日 ~ 27年 12月 31日			東経	
調査業者名	主任技師			現場代理人	コア鑑定者		ボーリング責任者		
孔口標高	TP 558.58m	角 上 180° 下 0°	方 北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配 鉛直 90° 水平 0°	使用機種	試験機	ハンマー 落下用具	半自動	
総掘進長	7.00m	度	向		エンジン	東邦 D-1 ヤンマー NFD13	ポンプ	東邦 BG-3	

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記述	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験	試験名および結果	試験採取番号	室内試験 (月日)	掘進	
										深 (m)	10cmごとの打撃回数 / 貫入量 (cm)								N 値
											0	10	20						
1	0.60	0.60		砂質土	淡褐			深度0.10mまで道路砕石。砂は細粒砂~粗粒砂。径5mm前後の角礫+円礫が少量混じる。深度2.90~3.22m間に硬質な玉石を挟む。深度方向に伴い礫の混入が減る傾向となる。	1.15	2	1	1	4/30						
2				礫混じり砂	暗褐 / 暗緑灰	緩い / 中ぐらい		砂は細粒砂~粗粒砂。径10mm前後の角礫+円礫が少量混じる。深度2.90~3.22m間に硬質な玉石を挟む。深度方向に伴い礫の混入が減る傾向となる。	2.15	8	8	12	28/30						
3				砂質土	淡褐			花崗岩の強風化部。岩石組織を明瞭に残すものの、コアは風化著しく、また亀裂も多く礫状のコアが主体となる。深度6.20m付近は一部土砂状となる。	3.37	1	6	3	10/30						
4	3.40	4.00		花崗岩	淡褐灰 / 淡灰			花崗岩の強風化部。岩石組織を明瞭に残すものの、コアは風化著しく、また亀裂も多く礫状のコアが主体となる。深度6.20m付近は一部土砂状となる。	3.67	14	21	15	50/25						
5				花崗岩	淡褐灰 / 淡灰			花崗岩の強風化部。岩石組織を明瞭に残すものの、コアは風化著しく、また亀裂も多く礫状のコアが主体となる。深度6.20m付近は一部土砂状となる。	4.15				50/25						
6				花崗岩	淡褐灰 / 淡灰			花崗岩の強風化部。岩石組織を明瞭に残すものの、コアは風化著しく、また亀裂も多く礫状のコアが主体となる。深度6.20m付近は一部土砂状となる。	4.40				50/25						
7	3.00	7.00		花崗岩	淡褐灰 / 淡灰			花崗岩の強風化部。岩石組織を明瞭に残すものの、コアは風化著しく、また亀裂も多く礫状のコアが主体となる。深度6.20m付近は一部土砂状となる。	5.00				50/0						
8				花崗岩	淡褐灰 / 淡灰			花崗岩の強風化部。岩石組織を明瞭に残すものの、コアは風化著しく、また亀裂も多く礫状のコアが主体となる。深度6.20m付近は一部土砂状となる。	6.10	50			50/10						
9				花崗岩	淡褐灰 / 淡灰			花崗岩の強風化部。岩石組織を明瞭に残すものの、コアは風化著しく、また亀裂も多く礫状のコアが主体となる。深度6.20m付近は一部土砂状となる。	6.20				50/0						
				花崗岩	淡褐灰 / 淡灰			花崗岩の強風化部。岩石組織を明瞭に残すものの、コアは風化著しく、また亀裂も多く礫状のコアが主体となる。深度6.20m付近は一部土砂状となる。	7.00				50/0						
				花崗岩	淡褐灰 / 淡灰			花崗岩の強風化部。岩石組織を明瞭に残すものの、コアは風化著しく、また亀裂も多く礫状のコアが主体となる。深度6.20m付近は一部土砂状となる。	7.00				50/0						